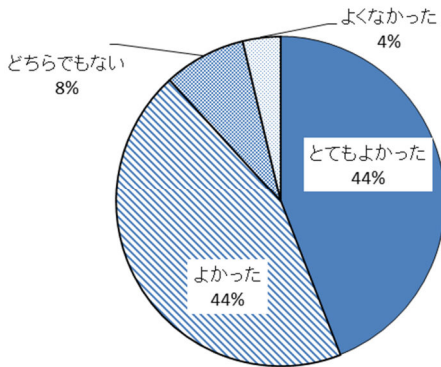


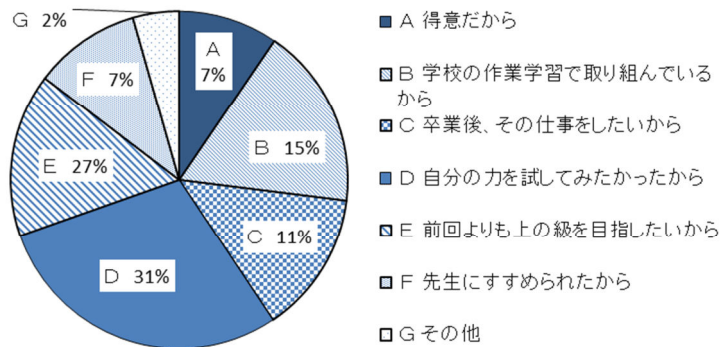
第5回愛顔のえひめ特別支援学校技能検定アンケート結果

(1) 受検者

① 「受検してどうでしたか」



② 「その種目を受検しようと思った理由」

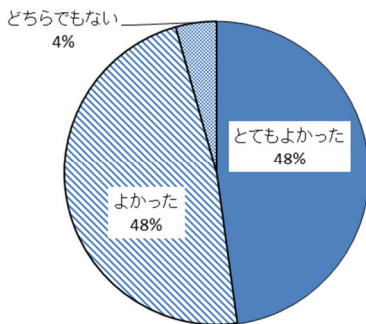


③ 感想（自由記述）

- 日々の練習の積み重ねを発揮する場ができてとてもよかった。
- 将来は喫茶の仕事に就きたいので、よい経験となった。次は1級を目指したい。
- 緊張したが、練習した成果を発揮することができ、1級に認定されてよかった。
- 普段、身だしなみが多少いい加減なところがあるため、いまひとつの結果となってしまった。普段の生活から気を付けたい。
- 先輩はすごいなと思った。自分もあんなに上手になりたいと思った。
- 検定を通じて様々なことが身につく、私生活・学校生活に活かしている。

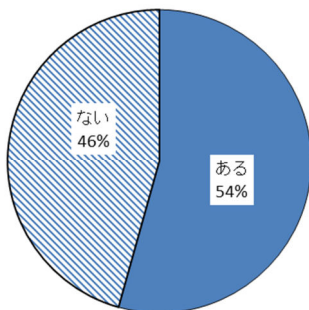
(2) 保護者

① 「子どもさんを受検させてどうでしたか」（自由記述）



- 毎日の練習で、友達と技能の評価をし合い、励まし合いながら目標に向かって努力をすることができてよかった。
- 今まで失敗したり上手くできなかったりした時のことを考え、チャレンジすることが難しかった。今回の経験で、自信をもつことができた。
- 技能検定を通して、時間を守ることやルール、挨拶、礼儀など、たくさんのお話を学ぶことができてよかった。
- 仕事の流れや、時間制限のある中で商品や道具を丁寧に扱うことの大切さ等、いろいろと勉強になった。商品化に取り組むことで、買い物に行った時に商品をよく見るようになった。

② 「子どもさんの様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」（自由記述）



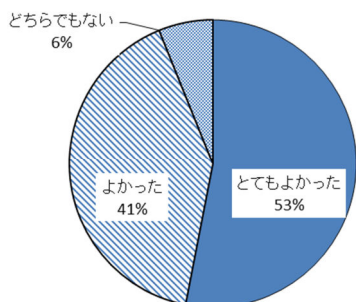
- 次の目標に向けて頑張ろうという意識ができてきている。卒業後をなんとなくイメージできるようになってきた。
- 大きな声で挨拶するようになった。家庭でも近所の方やお客さんに進んで挨拶するようになった。
- いろいろなことが丁寧にできるようになり、周囲に対して気遣いができるようになった。
- 夏休みに新聞記事を声に出して読むなど意欲が湧いてきた。
- 目標をもって努力すると結果が出るという実感が持てた。

③ 「今後、技能検定に期待することは、どんなことですか」（自由記述）

- より実践的な技能検定になれば、卒業後の進路に役立つと思う。
- 企業に技能検定を知ってもらい、理解してもらいたい。理解する企業がどんどん増えてほしい。
- 自分を知る、自分を理解する機会としてほしい。 ○ いろいろな種目ができるといい。
- 社会的な知名度、検定の難易度もあげて、雇用側の明確な指標となることを期待する。
- 検定で努力したことが、実生活、就業につながることを期待する。

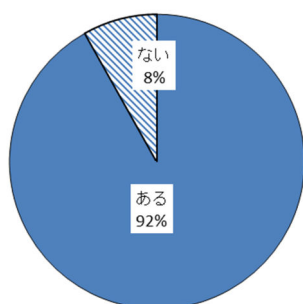
(3) 教員

①「生徒を受検させてどうでしたか」(自由記述)



- 目標に向かって努力し、本番で力を発揮するという経験が、生徒の成長や自信に結びついている。
- 検定で必要な「大きな声で挨拶する」や「時間内で課題をこなす」ということを、普段の生活の中でも本人が意識して行動するようになった。
- 緊張感のある中での検定は、大変よい経験となった。他校の生徒が頑張っている様子も見ることができ、大いに刺激を受けた。
- 文字入力の練習だけでなく、目標設定をすることやその目標に向けてどのように努力をしていくかについても考えることができた。
- 中学部生徒も技能検定に関心が高まっている。
- 技能検定を通して、隣接する他校の生徒と仲間としてライバルとして練習に励むことができた。

②「生徒の様子で受検前と後とで変わったことがありますか。」(自由記述)



- 自分ができない項目が分かったことで、課題が明確になり、次への取組へ前向きな姿勢が見られるようになった。
- 卒業後の進路について、生徒がより真剣に考えるようになった。
- 何でもやってみよう、頑張ってみようという気持ちが見られた。
- 友達にアドバイスしたり積極的に行動したりすることが増えた。
- 地区検定では、予想外に低い級判定に、生徒は落ち込んだ様子を見せていたが、そこをぐっと堪えて次回の受検希望を伝えにきた表情に強さとたくましさを感じた。打たれ弱い傾向のある生徒たちが、自らの弱点を克服していくきっかけになったのではないかと思う。
- 次の目標を生徒が考え、決めることが増えた。
- 時間を意識してきびきびと行動する場面が見られるようになった。

③「教員として、技能検定に取り組むことで変わったことはありますか。」(自由記述)

- 生徒への指導において、教職員自身がスキルアップする必要性を自覚した。
- 日頃からの挨拶、姿勢、声の大きさなど、学校生活のあらゆる場面において、生徒へ意識するような指導を行うようになった。
- 検定に向けて取り組む生徒と、目標や課題を話し合ったり、活動の手順や意味、やり方の工夫を考えたりする中で、生徒の可能性を改めて感じている。
- 生徒の適性や進路について、以前より時間をかけて考えるようになった。
- 普段の様子とは異なる生徒の姿を観て、その生徒の得意なこと、自信のある分野を教員がもっと勉強して、一緒に力を伸ばすよう努めるようになった。
- 声を出して報告することや身だしなみを整えることなど、どの職場でも必要とされる基本的な事柄について再認識することができた。
- 指導内容や方法の工夫についていろいろと考えるので、自分自身の指導力の振り返りや向上につながると思う。
- 技能検定でははかれない部分、労働意欲や真の働く力について、どう育てるべきか考えさせられた。

④「今後、技能検定に期待することはどんなことですか。」(自由記述)

- 地元企業にもっともっと生徒の力を理解してもらえるよう期待している。そのためにも、より充実した取組や、より有効な情報発信が必要である。
- 企業や事業所との連携により、就労に結びついていくとよい。
- 就職に生かせる(結びつく)内容が増えるといい。
- 子どもたちが力を発揮し頑張っている姿、子どもたちがもっている価値を、技能検定が社会に伝える場になってほしい。